

週刊 SSH（7月26日）

## 青少年のための科学の祭典

千代田区北の丸公園内の日本科学技術館で開催された青少年のための科学の祭典に本校生徒が5名参加しました。日本学生科学賞受賞者との交流や海洋学者の山形俊男先生による気候変動研究に関するご講演、個人・企業ブース演示の支援を経験し、様々に刺激を受けました。



午前中の交流会では、自分たちの研究について、また研究者を増やすためにはどうすればいいかなどについて話し合いました。研究をしている中で困っていることについて今まで誰かと話し合うことがほとんどなかったので、同年代の、しかも初対面の方々と話し合うことができ、とても刺激になりました。お昼ご飯も温かい雰囲気でも楽しく食べることができました。午後の日本学生科学賞受賞者のポスター発表では、どの受賞者も丁寧にわかりやすく説明をしてくださる姿が印象的でした。質問にも優しく答えてくださり、私もあんな風な発表ができるようになりたいです。この度はこのような貴重な機会を与えてくださり、ありがとうございました。

同年代の研究者との交流では、2100年科学技術の進歩は社会にどのような影響を及ぼすのかを考察し、「二十二世紀の預言」作成しました。その議論の中で、自分はAIの発達が人の仕事を代行することに役立つと考察したのに対し、交流した生徒の方はAIの発達がメンタルヘルスなどの精神疾患の治療に役立つという考察をしており、興味深い議論ができました。午後の研究発表会では、午前に交流した生徒の方の発表を聞きました。僕が特に印象に残った発表は都立小石川中等教育学校の「鉄のさびを調べる実験の発展」です。本研究では鉄の電極に電気を流した時のさびのつき方について酸化の過程で流れる電流と、化学反応式の観点から考察、検証しており非常に参考になる研究でした。これからも他校の研究者と交流から多くを学び、自分の発想をより豊かにしていきたいです。